

広報専門員コラム 第96回

チャレンジし続けた、10年。 「すみだタウンミーティング」



区では、区民と区長の対話の場を創り出すことを目的に、平成27年度から、「すみだタウンミーティング」を実施しています。この事業は、区長が地域に出向いて、毎回さまざまなテーマで区民の皆さんと意見交換を行うものです。

平成27年度以降、テーマやメインターゲットの明確化、コロナ禍でのオンライン開催、広報の新たな試みなど、様々な工夫をしています。コロナ禍の令和2年度には、オンラインで1回しか開催できなかったこともありましたが、10年間で34回実施し、延べ1,400人以上が参加しています。

令和6年度も、①テーマを「総合的芸術祭」に絞り込んでの開催、②対象を小学生にする、③若者だけの企画運営と多様な変化を持たせて「楽しそう・面白そう」と思ってもらう工夫によって参加者の幅を広げて、さらに増やす取組をしています。

チャレンジを継続してきたこの10年間について、地域活動推進課の石床めぐみ主査、佐藤智広主査に振り返っていただきました。



広報専門員 山田 格

——— いつから、どのような狙いで始めたのでしょうか？

■佐藤： 平成27年度からスタートした事業です。区民と区長が直接意見交換をする機会を通じて、多くの区民の皆さんに区政を身近に感じてもらい墨田区に愛着を持ってもらうこと、さらには区政への参加機会を創って、区民と区との協治（ガバナンス）の実現をはかることを目的としています。

平成28年1月に、「住みたい、住み続けたいまちすみだ」をテーマに八広地域プラザで、第1回目を開催しました。



平成28年1月17日 第1回目のすみだタウンミーティングを開催

——— 今年度が10年目の事業なのですね。

■石床： この10年で、34回開催し、1,400人以上の皆さんに参加いただきました。

私は、平成31年度から担当していますが、コロナ禍になった当初には、やむを得ず中止をしたこともありましたが。このような中、令和2年度はオンラインのみの開催としながらも、何とか続けてきました。



石床さん

——— 事業を始めた経緯は何だったのでしょうか。

■佐藤： 平成27年6月に山本区長が区長に就任して初の所信表明が行われ、「民間感覚と区民目線による、更なる可能性を追求した区政の展開」と「スピード感のある、区民に開かれた区政の推進」の2つの区政運営に関する基本姿勢が掲げられました。2つ目の基本姿勢の具体的な展開として、①戦略的広報の実現、②区民参加や区民との対話の場の拡充が示されました。



佐藤さん

①の具体的施策としては、「人つながる墨田区」をブランドメッセージとした「**シティプロモーション（広報広聴戦略）**」への取組が展開されました。また、②については、さまざまなテーマで区民と区長が直接意見交換をする「**すみだタウンミーティング**」が展開されました。



平成29年2月5日「シティプロモーション」をテーマに開催

——— 集客は順調でしたか？

■石床： 10年間の平均で、1開催当たりの参加者は、40名を超えていますので、一定程度の方の参加はできていると考えています。ただ、私が担当し始めた頃は、高齢の方の比率が高く、常連の方も多くいらっしゃったので、新しい人たちに参加してもらうこと、特に10～40歳代の方の参加が課題でした。そこで、新たな対象に興味を持ってもらえるようテーマをより明確に絞り込んだり、SNSを活用して情報発信したりと、親しみやすい広報にも取り組みました。



平成29年8月5日「出張タウンミーティング」子育て世帯の皆さんと昼食会を行いながら、子育てに関するテーマについて対話。当日は、家族で楽しめる内容に工夫を凝らした。

——— 集客を図るためにどんな工夫をしましたか。

- 佐藤： 住み続けたいまち・子育てしやすいまち・産業振興を通じたまちづくりなど分野別のテーマを取り上げたり、総合運動場・総合的芸術祭など具体的な事業をテーマにしたり、若者・高校生・中学生・子ども（小学生）など参加対象を絞り込むなど、常に新しい人に参加してもらうことを意識してテーマや対象が多様になるよう工夫を続けてきました。



平成30年10月13日 ランチ&コンサートを交えて開催



令和元年12月12日「産業振興」をテーマに開催

- 石床： SNS での情報発信も多用しています。区民の皆さんによる「企画運営委員会」では、企画・広報・運営全般に関わってもらいますが、企画運営委員会での検討の様子や準備段階の情報、さらには当日の模様を SNS に投稿するなど、タウンミーティングが創られていく過程も見えて親しんでもらえるよう、工夫しています。

墨田区役所
2024年12月31日

【タウンミーティング企画運営委員会の様子をお届け！ R6.Vol.8】

こんにちは！地域活動推進課まなび担当です👋
今年度の第3回タウンミーティングは「若者が創るタウンミーティング」をコンセプトに、20代の若者6人による企画運営委員会で開催内容を検討してきました👏

ついに迎えたタウンミーティング本番。1時間前に会場入りして、投影するスライドやBGM、読み原稿を入念にチェックしました！実は委員全員が揃うのは今日が初めて！最初の頃に比べて委員同士の距離も縮まっており、みんな良い緊張感を共有している様子でした👏

グループワークでは、委員もそれぞれのグループに入って、参加者の皆さんと一緒に「区長が思いつかないような地域力がある企画」を考えました👏

「サッカーが好きな委員」は、10代から80代まで幅広い年齢層のメンバーを、先生のように持ち前の人当たりの良さでまとめてくれました👏

「デザインが得意な委員」は、今回の鍵となる「地域力の定義」についても発表。彼女の言語化、可視化能力の高さのおかげで、参加者もスムーズにワークを進められました👏

「有名テーマパークの音楽が好きな委員」は、大学での専攻分野でもある防災テーマのグループを担当。彼女がセレクトしたBGMのおかげで、会場が和やかな雰囲気になりました👏

「動画編集が得意な委員」の作成した動画は、大いに広報効果がありました！アンケートでは、区公式Instagramをきっかけに申し込んだという回答がいくつかありました👏

「元プロアスリートの委員」は、経験を生かして文化・スポーツテーマのグループを担当。委員唯一の社会人ということもあり、落ち着いた対応を見せしてくれました👏

「起業家の委員」は、持ち味の人をフォロー、俯瞰する力を生かし、メンバーの特徴を引き出してくれました👏

終わりに区長からもお褒めの言葉をいただきましたが、委員の皆さんのおかげで良いタウンミーティングが開催できました👏学校、仕事、課外活動に忙しい中、企画運営委員にチャレンジしてくれて、本当にありがとうございました！

👉タウンミーティングとは...？
区長と区民の皆様との対話の場の創出を目的として、平成27年度から、毎回様々なテーマで意見交換を行っています。
<https://www.city.sumida.lg.jp/.../townmeeting.html>
#墨田区 #すみだ #すみだタウンミーティング #タウンミーティング #協働 #協働 #ガバナンス #地域

「若者が本気ですみだタウンミーティング企画！！」
「おもしろ企画会議」
2024年12月31日

この投稿を宣伝して、墨田区役所のリーチを増やそう。

投稿を宣伝

いいね！ コメントする シェア

「すみだタウンミーティングでは、どんなことが行われているのか？」がわかりやすく伝わるように、Facebook、X、LINE を活用して発信している。

——— 印象に残っている回はありますか？

■石床： 令和元年9月の「“つながる場” づくり～コミュニケーションプレイスの実践を通して～」では、**初めてグループワークをメインに取り入れました**。従来は、区民の皆さんがそれぞれの課題を区や区長に提案するという進め方だったのですが、参加者同士でさまざまな課題を話し合うとともに、その中に区長にも参加してもらう進め方に変更しました。**みんなで議論することで、一緒に区政をより良くしていこうというムードづくりができたな、と感じています。**



グループワークを行う進め方に大きく変更したことで、参加者それぞれの考えを話せる機会も増えた

様々な場所・テーマ・人と対話を重ねてきました



平成29年2月12日 八広地域プラザで開催



令和4年12月13日 「スポーツ」をテーマに開催



令和6年1月28日 「こどもタウンミーティング」



令和6年8月23日 文化芸術振興課「総合的芸術祭」をテーマに実施

——— 令和2年度は、新型コロナウイルス感染症に翻弄されましたね。

■石床： コロナ禍で人が集まることへの負荷が高くなり、区の出組を含めさまざまなイベントが中止になっていく中で、企画運営委員会の皆さんからも「こんな時だからこそ、つながりを大切にしたい、開催する意義がある」と後押しをいただきました。オンラインイベントがまだまだ浸透していない時期でしたが、初のオンラインでのタウンミーティングに46名の方に参加していただくことができました。その中で、参加者から「コミュニケーションを諦めない」という力強いメッセージをいただき、令和3年度以降も、「コロナ禍だからできない」ではなく「どうやったら、実施できるのか」を常に考え、担当職員とともに様々に試行錯誤しながら、会場とオンラインのハイブリッド型開催を確立していきました。ICT推進担当、広報広聴担当をはじめ、様々な部署の方々が親身に応援してくれ、多くの方の協力により開催できた1年でした。



令和3年1月16日 コロナ禍でのオンライン開催の様子



令和4年1月21日 墨田区協治(ガバナンス)推進条例施行10周年の区報特集記事でも開催告知をPRした



令和4年2月19日 コロナ禍での開催ノウハウを蓄積し、会場(すみだリバーサイドホール)とオンライン開催のハイブリッド方式を実現

—— iU（情報経営イノベーション専門職大学）でも開催しましたね。

■石床： 令和4年度と5年度は、企画運営委員を iU の学生の皆さんに担当していただきました。学生・一般の方それぞれの参加を募集し、多世代交流につながるような試みを行いました。



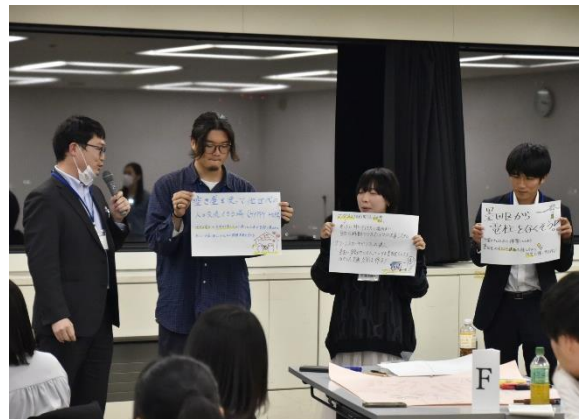
令和5年8月13日 iU で開催の様子



様々な世代の視点での意見・提案を集めることができた

—— 令和5年度には、参加者を15～30歳の若者だけに絞り込んだ取組にも挑戦しましたね。

■石床： 対象を若い世代で絞り込むとともに、新たな試みとして、タウンミーティングでの提案事項を検討するための「事前ワークショップ」を11月に開催しました。これまでも高校生や大学生の参加がみられたり、想いをもって地域活動をする若者たちに出会ったりしていましたが、やはり一番心配したのは、年齢層を絞り込んで参加者が集まってくれるかということでした。iU・千葉大学・芝浦工業大学すみだの巣づくりプロジェクト・あそび大学のボランティア学生など区と関係のある人たちに声をかけるとともに、大学生世代が興味を持ってくれるよう「同世代での交流ができる」ことも前面にアピールしながら、募集期間中にFacebook は5回、X は8回発信しました。



令和5年11月29日「すみだ若者タウンミーティング」の事前ワークショップの様子
写真からも伝わるように、非常に活発な意見交換を行うことができた。

——— 令和6年12月に実施した『『おもしろ企画会議』～老若男女のわくわくで『すみだ』を創ろう!!』ではさらにバージョンアップしましたね。

■石床： 令和5年度の「すみだ若者タウンミーティング」の中で、「50年後もタウンミーティングを続けていきたい!」という、若者の熱い想いに触れ、さらなる挑戦が始まりました。

そこで令和6年度は、「若者が創るタウンミーティング」をコンセプトに、企画運営委員を公募し、20代の若者6人を中心に実施内容を検討してきました。「若い世代が“参加したい”と思えるタウンミーティング」を目標に掲げ、委員自ら「10～20代の参加者が50%」という目標値を設定しました。



令和5年12月13日「すみだ若者タウンミーティング」当日の様子

委員からの「行政イベントの参加にハードルを感じる」、「区の課題について意見を語る、というどうしても重たい感じがする」という意見を大切に受け止めました。そこで、とにかく、楽しそう・面白そうと思ってもらうことで、参加の敷居を下げることを第一に考えました。

運営面では、すみだのことをよく知っている「どっぴり墨田さん」と、まだあまり良く分からないなと感じている「ちょっぴり墨田さん」それぞれに配慮をした進め方をしたり、会場にBGMを流してリラックス感を演出したりと細かな配慮を積み重ねました。

広報面では、「参加のしやすさ」、「楽しそう・面白そう」と感じてもらうことを狙って、委員や職員の登場する手づくり動画を作成し、若い層のフォロワーが多い区公式Instagramでの発信に初挑戦したり、複数のSNSでのメディアミックスをさせたりしながら、どんどん投稿しました。

「楽しそう! 面白そう!」
 と思ってもらうために
 作成した動画
 がこちら

Instagram リール



令和6年12月18日 すみだタウンミーティング「おもしろ企画会議」

老若男女のワクワクで「すみだ」を創ろう！という趣旨で、企画方法・事前情報発信について新たなチャレンジを実施



企画運営委員



山本区長もワークショップに参加して意見交換

——— 効果はありましたか？

■石床： 目標の「10～20代の参加者が50%」には届きませんでしたが、10～40代の参加者が61%と、多様な世代に参加していただくことができました。

■佐藤： 実施後のアンケートでの参加した理由に「多世代の人と交流できそうだから」、「興味のあるテーマだから」、「楽しそうな内容だったから」を挙げた人が多く、参加のハードルを低くして、参加者同士でのつながりを創るという目標に近づいたと感じています。

——— 全体を通しての参加者の感想は、どうでしたか？

■佐藤： 「さまざまな意見が聞けて有意義だった」、「若者の意見が聞けて良かった」、「議論をすることで、自分の考えをはっきりと言語化できた」、「区役所が身近に感じられた」、「区長が一つひとつの提案に丁寧に答えてくれ親近感が湧いた」など好意的な意見をいただいております、企画運営委員会や事務局メンバーの励みになっています。



——— タウンミーティングを続けてきて得たものは何なのでしょう。

■佐藤： まずは、先ほどの参加者の皆さんの感想からも窺えるように、多くの区民の皆さんに**区政を身近に感じてもらい愛着を持ってもらうことにつながっている**と思います。

さらには参加していただいた方々が、**その後も区のいろいろな委員を担ったり、参加者同士がつながって、新たな活動に取り組んでいただいています。着実に、「区民と区との協治（ガバナンス）の実現をはかる」というこの事業の狙いに沿った成果が出ている**と思っています。

■石床： 「みんなの“夢”をストックしよう！～総合的芸術祭に向けて」、「総合運動場×東京 2020～区長と語ろう すみだのスポーツの未来～」、「産業振興を通したまちづくり」など、**主管部門の事業展開や計画づくりのための幅広い意見聴取の機会にも活用されています。**

また、私自身は、「区民との協働」についてもたくさん学ばせていただきました。企画運営委員会において、委員の意見をいかに引き出すか、また、出てきたアイデアに対し、「今までやったことがないからできない」と諦めるのではなく、実現するために知恵を出し合ったり、調整したり、時には無茶ぶりにも全力で乗っかって、委員と同じ目線で自分も楽しむことが、より良い事業を創っていくうえで大切だと感じています。

——— 今後への課題は、何でしょうか？

■石床： グループワークを行うというスタイルは定着してきましたし、皆さんに自分ごと化していただくためには、良いプロセスだと思っています。一方で、聞いているだけでなく、何か発言しないといけないということにプレッシャーを感じて、参加を躊躇している方もいるかもしれません。もう少し、気楽に参加できるような組立も必要かもしれません。いずれにしても、**参加者の様子をよく見ながらご意見を吸収しつつ、常に模索し続けることが大切なのだと思います。**



今後もタウンミーティングが区民の区政参加のきっかけとなることを目指す

——— **ありがとうございました。「区民の声をよく聴く」ことは、仕事の一番のベースだと思います。今後のさらなる進化を楽しみにしています。**